

# 棚田米と地元野菜をおいしく食べる マルシェプロジェクト

平成23年度  
採択事業

代表取締役  
福山 勝久さん



福山 勝久さん

## 「間人ガニフルコース」発祥の宿として

京都府の北に位置する丹後半島。その日本海に面する場所、間人（たいざ）温泉郷にある「昭恋館よ志のや」は、昭和3（1928）年創業の老舗旅館で、「間人ガニフルコース」発祥の宿として多くのお客様に親しまれています。現社長の福山勝久さんは、京丹後市の指定管理者制度導入に伴い、今まで培ってきた旅館業の経営ノウハウを活かして、平成18（2006）年より温泉宿泊施設「宇川温泉よし野の里」の管理運営を行っています。

「宇川温泉よし野の里」には、日帰り温泉、宿泊施設、レストラン、直売コーナー等の施設があり、直売コーナーでは、以前から地元生産者組織「○（えん）の会」による農作物や土産物等が販売されていました。

## 直売コーナーのイメージを一新

今回の事業では直売コーナーを拡大して「マルシェ・デルソーレ」と改名し、地元袖志地区の棚田で収穫した棚田米の直売をはじめ、地元生産者組織「○（えん）の会」の野菜、自家製の加工食品、雑貨等の販売強化を図っています。これを基盤に、地元及び都市部の観光目的で訪れた日帰り温泉施設の利用客や宿泊・ツアー客等を対象として販路を拡大できるシステムを構築していきます。

マルシェ・デルソーレでは、これまでの産地直売コーナーというイメージを一新して、女性の目線から見た「マルシェ」というイメージを演出することで、おしゃれで明るい売り場作りをしました。「丹後の自然豊かな地で採れた野菜。

こだわりの持って作られた野菜を手軽に買えるところが、宇川温泉よし野の里のロビーに作られた『マルシェ・デルソーレ』です。毎朝周辺の農家から持ち込まれる野菜は、新鮮で深い甘味がします。また、「よし野の里」のレストランでも地元で採れた野菜料理がいただけます」と語る福山さん。また、えんの会以外の生産者にも新たに参加してもらい、陳列



新設された直売コーナー「マルシェ・デルソーレ」

## 農林水産物の活用



地元で収穫された棚田米や野菜などを販売しています

商品の増強を図ることでリピーターの増加と地域経済の循環に寄与するシステムを構築していくそうです。

デリカテッセンでは、棚田米をおいしく食べるためのお総菜を開発し商品化しています。また、マルシェの商品を使用して加工し、生産者の顔が見える材料をアピールしています。施設内には本格的なパン工房もあり、棚田米を使った天然酵母の自家製米粉パンを開発し販売しています。

## 棚田再生プロジェクト

棚田米は、日本の棚田百選に選ばれており、福山さん達は間人での袖志の棚田再生プロジェクトに参加して一緒に棚田を守る取り組みを行っています。「手植えによる棚田再生プロジェクトは、学生、社会人ボランティアなどで構成されており、一民間企業が地元と一緒にすることは大変有意義でした。他のプロジェクトを行う場合にも地元の協力が不可欠なので、私たちもこのプロジェクトに参加して良かったと思っています。

現在、棚田米は小ロットの取引ではありますが京都生協とも取引があり、全て完売しているそうです。「レストランの期間限定メニューとして棚田米のランチを提供することで、棚田米のおいしさを味わってもらっています。棚田米ランチを目当てに訪れるお客様も増えてきました」と、手応えを感じています。

## プロジェクトを通して地域と関わる

「当初は自社のことだけを考えていましたが、プロジェクトを通して地域と関わるということを経丹後市商工会が提案してくれました」。その結果、お客様により良いサービスを提供するという意識が高まり、「今まで以上に売り方を工夫することで少しでも業績を伸ばそうと、スタッフ一同が考えてくれるようになりました」と、成

果の上がったことを実感しています。

「棚田米や限定品など、価値の上がる商品が売れるように努めることは地域のためにもなるし、それが我々の役目だと認識するようにもなりました」。こうした努力が功を奏して、今までは温泉施設という位置付けだけで、間人には核となるコミュニティがありませんでしたが、売場を改装したことによって観光客をはじめ地元の人が交流できる場として認知されるようになりました。

## 地域のプラットフォームを目指して

今後の点について福山さんは、「売場の面積を拡大したいですね。まだ置けていない生産者の生産物があります。アイテムを増やすことで売り上げもアップしますし、それで地域の生産者も潤い、そうしたビジネスの仕組みを循環させていくことが目標です」と語り、さらに「料理にはこだわり続けています。絶えずトップを目指したいですね」という老舗旅館ならではの抱負を見せます。

イメージが向上することで施設の役割が明確になり、今後も地域の核となる施設、「プラットフォーム」として活用してもらえるような事業運営を心がけていきたいと語る福山さん。これからも多くの方が温泉を楽しみ、地元の方の真心が伝わる美味しいものを食べていただくことで、間人の魅力をもっと感じてもらうことができることになるでしょう。



地域の産品を中心に陳列商品が増えました

## 事業概要

株式会社 福山

http://www.taiza.jp

代表：福山 勝久

業種：宿泊施設・温浴施設の経営・観光用土産物・海産物及び農産物の販売

創業：昭和3（1928）年 設立：平成10（1998）年

住所：〒627-0201 京丹後市丹後町間人1297-3

TEL：0772-75-2284 FAX：0772-75-0330